

－ わたしのエスペラント人生 －

地方会・IT・小林司

私がエスペラントを始めたのは大学時代で、語学的興味からだった。居住地の目黒にはエスペラント会（E 会）がなかったので、63 年に小原孝夫さん（1908-1992）らと目黒 E 会を設立した。私は銀行に就職したため、転勤が多かった。最初の勤務地は川崎だったが、65 年に京都に転勤、その後 67 年に東京に戻り、次に 74 年に関西に行ったときは吹田に居住した。これにつれ、所属ロンドは目黒 E 会、京都緑星会（現在の京都 E 会）、目黒 E 会に戻り、次に吹田 E 会となった。その後、東京には 81 年に戻り、再々度、目黒 E 会に所属した。89 年には居住地を目黒から練馬に移したので、練馬 E 会に変わった。私はエスペラント運動の原点は地方会にあると考えていたので、どこに行っても地元の地方会に入会した。

65 年には東京で世界エスペラント大会が、大津市で世界青年大会が行われたので、1 週間の休暇を取り、半分ずつ参加した。

京都にいたときは大阪市淀川区にあった関西 E 連盟（KLEG）の事務所に良く顔を出していた。いつも宮本正男さん（1913-1989）がいた。また、KLEG などの機関誌、La Movado にもよく記事を載せてもらっていた。「ぼくは活動家」というシリーズものも掲載してもらったが、次のようなことをエピソード風書いている。① 例会は個人宅ではなく公共の機関を使う。② 例会でベテランが昔話ばかりするのはご法度。③ 学習だけでなく、話し合いのある例会を。④ *disputi* でなく、*diskuti* の出来る雰囲気。⑤ 会の運営は細心に。組織を作るのは難しいが、こわすのはカンタン。⑥ 会の運営者はエスペラント能力より気遣いの出来る、統率力ある人を。⑦ 会の運営は分担して。でないとなんか運営者が転居などでいなくなったときに会の存続が難しくなる。それにしても、20 代の若造によくもこのようにたくさんのスペースを与えてくれたものだと思う。

67 年には京都で日本大会を行うことになったが、私もこの開催に携わった。これまでは大会は真夏の暑い時期に、冷房もないところで行われ、討論に没頭できないこともあった。そこで、この大会では冷房完備の京都市教育文化センターで行った。これは好評で、以後の大会は冷房のあるところで行われるようになった。

92 年に Windows3.1 が発売され、爆発的に売れた。メールを使えば多数の人と

無料で、即時に意見交換が行える。この電子メールの機能などを利用して、多数の人が分担して、デジタルのエスペラント辞書を作ろう、というプロジェクトが 95 年から始まり、私も参加した。この「電単プロジェクト」は 97 年に完成した。Plena Ilustrita Vortaro に載っている 15000 語が日本語化されている。これが今使われている電子辞書の原点である。

2000 年にはメーリングリストの ERAJ (Esperantaj Ret-Amantoj Japanaj) が出来、情報の伝達、意見交換などが簡単にできるようになった。当時はメーリングリストはまだあまり普及していなかったが、小林司さん (1929-2010) がこの実現を強く主張し、私もこの設立に関わった。

小林司さんは偉大な旗振りであった。エスペラント界の IT 化にも尽力したが、共同翻訳と言うツールでエスペラント界に活気を与え、シャーロック・ホームズ、精神医学と言うチャンネルで培ったつてを通じ、エスペラントの普及にも貢献した。2003 年に『ザメンホフ通り』の共同翻訳を提案、67 人を集めてスタート、2005 年に完成、International Herald Tribune などに記事が載った。すごかったのは朝日新聞のネット版 asahi.com に載った時で 1 日に 3000 人、都合 15000 人ほどの人がこのホームページを訪問したことである。この本は一部の大手の書店では平積みで売られたので、良く目立ち、この本を読んでエスペラントを始めた人も何人かいる。その後、小林さんは B.コルケルの *Vojaĝo en Esperanto-Lando*、A.コルジェンコフの *Homarano* の共同翻訳でも旗振りを行った。私もこの 3 つのプロジェクトに参加した。

La Movado に地方会のことを書いたのは 50 年ほど前になるが、現在でも地方会運営には少なくとも次のようなことが必要だと思う。① 例会は公共の建物で、規則的に行う。② 機関誌は定期的に発行する。③ 地方会はホームページを作成し、定期的に更新する。④ 例会に出られなかった人にはメールなどで次回の学習場所を通知するなどして、フォローする。⑤ 文化団体連合会など地元の文化団体に加盟し、他の団体とも協働し、展示会などの機会を持つ。⑥ 構成メンバーにもよるが、単に学習するためだけではなく、人との触れ合いを求めている人も多いため、雑談の時間もつくとかの配慮が必要。

地方会のホームページを見て、メールで尋ねてくる人も結構いる。ただし、ホームページも更新を怠ると会が滅亡したように見えるので心すべし、である。前に、展示会で見たとか、学校の先生に話を聞いたとか、教科書に出ていたとかでエスペラント語という単語が頭の片隅にあり、何かの拍子に調べてみよう

かと思ったときに、コンピューターの検索枠に「練馬 エスペラント語」のように入力するケースが多いのである。

私は最近、本誌の音読奉仕をやっているが、色々な国の固有名詞 - 人名、地名が出てきて、発音のしかたに苦慮していた。最近は Google 翻訳のページでスピーカー印をクリックすると、その言語で発音してくれるので助かる。

他にも、最近ではコンピューターを上手に使うと、無料でエスペラントの学習が出来たり、エスペラントのインターネット放送を聴くことによりヒアリングの練習が出来たり、便利な世の中になった。ユーチューブで「エスペラント」または“esperanto”と入力して検索すれば、一生かかっても見られないような多数の動画が出てくる。

新しい時代に即した運動が求められるだろう。

(resumo) Mi transloĝiĝis al kelkaj lokoj pro la ŝanĝiĝo de laborloko, kaj ĉiam mi apartenis al lokaj Esperantaj kluboj, ĉar mi pensis, ke fundamento de Esperanto-movado estas en lokaj kluboj. Kobayashi Tsukasa estis lerta promocianto por Esperanto. Li aktivigis japanan esperant-ujon per komuna tradukado k.a. Nun estas la tempo de informa teknologio, kaj ankaŭ nia movado devas akordiĝi al la tendenco.

(日本エスペラント協会 (<http://www.jei.or.jp/>) の機関誌 La Revuo Orienta (<http://www.jei.or.jp/ro/>) 2016年7月号より)